

## 学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	・学校教育自己診断における「授業満足度」及び「授業で発表する機会」の割合向上 ・授業アンケートにおける「授業に興味・関心をもつことができた」「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の割合向上 ・外部学力調査における学習習慣の定着及び学力結果の向上
計画名	「輝け！川高生－生徒が学びの主役になれる授業を」

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 確かな学力の育成 (1) 生徒の(a)基礎・基本となる学力の定着ならびに「学ぶ意欲」や、生徒一人ひとりが自らの考えを的確に伝え、相手の意見も傾聴できる(b)コミュニケーション力を育成する。 イ 生徒の主体的な学習態度を育成するため現状を把握し、(b)「考える、まとめる、発表する」等の力を高める授業を実施する。</p> <p>3 生徒の自己効力感と人権意識を向上 (1) ウ 学校行事（体育祭や文化祭等）や学年行事、ホームルーム活動など、(b)生徒が主体的に企画・立案、運営し、達成感や満足感の伴う取組みの充実</p> <p>4 学校全体の課題を解決するため、組織的活動の徹底と教職員力を向上 (2) (c)「中国等帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」の実施を見据え、入学生徒の受け入れ態勢や指導体制の確立 (4) (c)配慮を要する生徒への共通理解を図り、カウンセリング機能を活かした適切な指導</p>
事業目標	<p>「生徒が学びの主役になれる授業」づくりのために ・本校生徒の特徴として、入学直後は「勉強する意欲」は低くはないものの、学習習慣と学力結果を維持・向上させることが課題になっている。 ・平成27年度、学力向上チームにおいて、本校生徒には「達成感」「甘えさせない」「参加型」学習が必要であるとの取りまとめを行い、全校で共有した。 ・本校では従来から電子黒板やプロジェクターを活用する授業を行ってきたものの、台数や場所が限られており、生徒自らが十分に活用するまでには至らなかった。 ・ICT機器の全普通教室等への整備と活用を通して、「生徒の学力定着と学ぶ意欲の向上」「コミュニケーション力の育成」「外国にルーツのある生徒、配慮を要する生徒へのサポート」などを行う。 (a) 生徒の学力定着と学ぶ意欲の向上 生徒の知識定着、理解の深化及び学ぶ意欲の向上のため、教材の視覚化を行い、わかりやすくかつ内容を深めた授業を実施する。 また、生徒の様子を確認しながら的確に指示することで、学習意欲を高める。 (b) コミュニケーション力の育成 生徒が主体的に学習するとともに、自分の考えをまとめ、発表する力を育成するため、授業や総合的な学習の時間等において、調べ学習やプレゼンテーション等を実施する。 (c) 外国にルーツのある生徒、配慮を要する生徒へのサポート 教材の視覚化などの工夫により、外国にルーツがある生徒の学校生活や学習活動への理解を促進する。 障がいのある生徒等に対して、個々に応じてきめ細かい指導を行い、学校生活や学習活動への理解を促進する。</p>
整備した 設備・物品(数量)	<p>・短焦点プロジェクター（無線LAN使用可）（普通教室（19教室）） *11台設置11月23日、6台追加設置1月27日、2台追加設置3月2日 *マグネットスクリーン・タブレットPC（カメラ機能搭載）については学校管理費等で購入</p>
取組みの 主担・実施者	<p>取組みの主担：学力向上チーム及びICT機器を活用する授業の担当者等 取組みの実施者：全教職員の7割程度の活用を予定</p>
本年度の 取組内容	<p>【事前研究】 以下の取組みに向け、ICT活用の実践例及び活用したいことについての現実的な利用方法の研究と検討（～11月）</p> <p>(a) 移動式プロジェクターを用い、教材の視覚化などの工夫をした授業を実施 (b) 授業や総合的な学習の時間における生徒のICT機器の活用の検討と試行 (c) ユニバーサルデザインに基づいた授業について研修</p> <p>【取組み充実に向けた流れ】 職員研修（機器の使用、第1回11月・第2回1月）及び研究授業（11月） →教科での教材開発と協議及び次年度の活用方法について検討（3月～）</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>(a) 学校教育自己診断における「授業満足度」67%（H27：63%） 授業アンケートにおける「授業に興味・関心をもつことができた」2.91（H27：2.88） 「授業を受けて知識や技能が身に付いた」2.97（H27：2.94） (b) 学校教育自己診断における「授業で発表する機会がある」46%（H27：42%） ・外部学力調査（進路マップ）において 学力結果 1・2年9月結果を次年度4月に維持 気持ち・生活アンケート結果 1年9月「頑張って成績を伸ばしたい」35%（H27：32%） 「自宅学習している」42%（H27：39%）</p>
自己評価	<p>※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×）</p> <p>(a) 学校教育自己診断における「授業満足度」61%（△）（H27：63%） 授業アンケートにおける「授業に興味・関心をもつことができた」2.97（◎）（H27：2.88） 「授業を受けて知識や技能が身に付いた」3.01（◎）（H27：2.94） (b) 学校教育自己診断における「授業で発表する機会がある」53%（◎）（H27：42%） ・外部学力調査（進路マップ）において 学力結果 1・2年9月結果を次年度4月に維持 1年9月C2→2年4月C2 2年9月C3→3年4月D1（国語C3、英語C3、数学D1、国数英総合D1） 気持ち・生活アンケート結果 1年9月「頑張って成績を伸ばしたい」24%（△）（H27.32%） 「自宅学習していない」41%（△）（H27.39%）</p> <p>【コメント】 ・学校教育自己診断の「授業に興味・関心」「知識・技能が身に付いた」が大きく向上 ・学校教育自己診断（生徒向け）「授業で発表の機会」も大きく向上 ・一方、学校教育自己診断（生徒向け）の授業満足度は微減 ・外部学力調査（進路マップ）における気持ち・生活アンケート結果は「成績を伸ばしたい」が大幅減、「自宅学習」する生徒が微減 *同一生徒が対象でないことから単純には比較できず（現1年生で日々課題・週末課題を実施）</p>
次年度に向けて	<p>(a) 固定式プロジェクターを用い、教材の視覚化などの工夫をした授業の実施を拡大 (b) 授業や総合的な学習の時間における生徒のICT機器の活用を実施 (c) 生徒による下級生へのコース等のプレゼンテーションの実施を検討 (c) ユニバーサルデザインに基づいた授業の実施</p> <p>【取組み充実に向けた流れ】 職員研修（機器の使用、5月）及び研究授業（6月）→教科での教材開発、書籍及び協議（9月～） →学校教育自己診断等に基づき分析・評価（1・2月）→次年度の活用方法について検討（1・2月）</p> <p>【コメント】 ・平成28年度末から平成29年度当初までに、全HＲ教室でのプロジェクタの整備と活用の推進 →授業アンケート結果は平成28年度成果を基礎に、+0.03増をめざす（H29.3.00）とともに、発表機会も増加させる+4%（H29：57%） ・自学習習慣や学習に向き合う姿勢の確立については、キャリア教育等の学校全体の取組みと連携して推進</p>